



「門仲（もんなか）」こと門前仲町は、永代寺の門前町です。
 今も昔も多くの参拝客を集める深川のお不動様と八幡様が有名です。
 祭りが大好きな深川っ子が愛するまち並みをお楽しみください。

深川門仲ご利益コース

都営地下鉄門前仲町駅は
 北緯35度40分21.78秒
 東経139度47分42.36秒
 でござる。

距離
 約1.5km

目安所要時間
 約90分



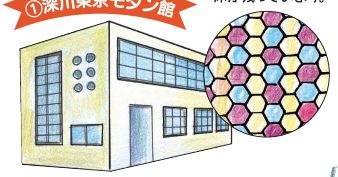
- 江東区文化観光ガイド
 ～区内のまちあるきガイドサービス～
 江東区文化観光ガイド事務局 ☎03-6458-7410
 受付時間：9時～17時（土・日・祝日・年末年始を除く）
- 深川東京モダン館
 ～江東区の観光・まちあるき案内所～
 住所：江東区門前仲町1-19-15 ☎03-5639-1776
 開館時間：10時～18時（金・土は19時まで）
 休館日：月曜（祝日の場合翌営業日）及び年末年始

R5年9月よりおひとり200円頂戴いたします。

①深川東京モダン館

昭和7年（1932）竣工の「旧東京市深川食堂」の外観イメージを色濃く残して改修し、平成21年10月にオープンしました。国登録有形文化財（建造物）です。タイル張りの階段まわり、床や壁面には戦禍にも耐えた建設当時の丸窓に特長があります。1階は江東区の観光・まちあるき案内スペース、2階は多目的スペースとなっています。

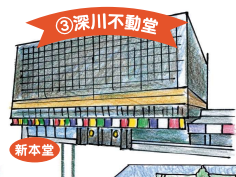
①深川東京モダン館



江東区の観光・まちあるき案内所です。

階段部分には建設当時のモダンな床が残っています。

お参りの際には内仏殿（拝観無料）にも入ってみよう！



②辰巳新道

大通りから少し入ったところにある、昭和の面影を色濃く残す居酒屋や小料理屋がひしめく路地です。「辰巳」は東南の方向を表す言葉です。深川は江戸市街の「辰巳」の方角にあたり、江戸時代には遊興の地として賑わったので、「恋風も辰巳となればすこくなり」という川柳が詠まれたほどです。深川の芸者は「辰巳芸者」と呼ばれ、気風が良いことで評判でした。辰巳芸者の手古舞姿は、現在では富岡八幡宮の「深川八幡祭り」や「江東区民まつり中央まつり」で、地元の有志の方々によって演じられています。

スタート



③深川不動堂

元禄16年（1703）以降、永代寺境内の富岡八幡宮で度々行われた成田山新勝寺の出開帳を起源とします。深川不動堂としての創立は明治期に入ってからで、神仏分離令の影響で廃寺となった永代寺の跡地に、明治14年（1881）に本堂が造営されました。現在、旧本堂と呼ばれている仏堂は、千葉県印旛沼のほとりにあつた龍興寺の地蔵堂を昭和26年（1951）に移築したものです。建物を包む不動明王のご真言（真言梵字壁）が印象的な新本堂は、平成23年に完成しました。

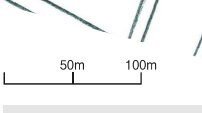
②辰巳新道



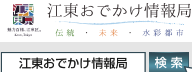
④富岡八幡宮

「江戸最大の八幡様」こと富岡八幡宮は、当時永代島と呼ばれていた地に、ご神託により寛永4年（1627）に創建されました。3年に1度の「深川八幡祭り」は、ワッショイ・ワッショイのかけ声と共に神輿を担ぐ「水かけ祭り」。沿道の観衆から担ぎ手に清めの水が浴びせられ、担ぎ手と観衆が一体となって盛り上がり、江戸の粋を今に伝えるお祭りとして多くの人々に受け継がれています。

ゴール



江東区の観光情報やアクセス方法については、江東区観光協会の公式 Web サイト「江東おでかけ情報局」をご覧ください。



⑤大関力士碑と横綱力士碑

大鳥居をくぐってすぐ右手にある大関力士碑は、明治31年（1898）に9代目市川團十郎と5代目尾上菊五郎が寄付した石材を使用し、昭和58年（1983）に建立されました。初代大関の雪隠一宝庵（1757）から琴歐洲までの名前が彫り付けてあります。「巨人力士身長碑」には、別に等身大の碑がある釈迦堂をはじめとした江戸時代の長身力士の名と身長が刻まれ、「巨人力士手形足形碑」には手形や足形が刻まれているので、自分の身長・手・足と比べてみてはいかがでしょうか。境内奥には、江戸時代最後の横綱である12代陣幕久郎が中心となって明治33年に竣工した横綱力士碑があり、碑の裏面には歴代横綱の四股名が彫り付けられ、現在では71代鶴庵まで彫られています。

⑥八幡橋

明治11年（1878）、東京府の依頼によって工部省赤羽製作所において鑄造された都内最古の鉄橋で、国の重要文化財です。当初は、中央区に弾正橋として架けられましたが、関東大震災後の帝都復興事業区画整理により、昭和4年（1929）5月に現在の場所に移されました。明治初期の橋の風格を持ち、菊の紋章が取り付けられており、橋梁史の上からも貴重な橋です。

⑦伊能忠敬像

伊能忠敬は今から約200年前の江戸中期に、初めて実測による正確な日本地図を作りました。50歳を迎えた忠敬は、江戸深川黒江町（現・門前仲町1丁目）に移り住み、天文学を本格的に勉強しました。そして、55歳の時に江戸を出発し、15年をかけて日本地図を作りました。その距離は地球1周分に相当します。関宮林蔵も忠敬から測量技術を学び、蝦夷地の測量をしています。忠敬が、富岡八幡宮を必ず参拝してから測量へ出立していたことにもちなみ、平成13年に銅像が建立されました。

⑧富岡八幡宮大鳥居

江戸時代、富岡八幡宮の一の鳥居は、現在の門前仲町交差点付近に建てられていました。その鳥居の近くには、晩年の紀伊屋屋左衛門が住んでいたとされます。一の鳥居から東にのびていた参道が、現在の永代通りです。区内でも賑やかな場所の一つで、地元の人々や観光客で活気のある街となっています。永代通りに面して建つ現在の鳥居は、銅張りの堂々とした八幡鳥居の典型で、扁額には創建にまつわる伝説の一つとされる「富ヶ岡」の文字が掲げられています。